



Vol.63

## 机の上の小さな変革



## 同期と非同期

こんにちは、菅俊一です。今回は「同期」と「非同期」ということをテーマにして、社会の成り立ちについて考えてみたいと思います。今回の文章のなかでは、同期と非同期を「時間やタイミングを他者と合わせているか否か」という意味で使い分けています。

それでは、このような視点から、いまの世の中にある「同期しているもの」と、逆に「非同期であるもの」をそれぞれ5つほど挙げてみてください。



いかがですか？ たとえば同期しているものとしては、電車やバスのような公共交通機関がすぐに思いつくかもしれません。これらは定刻に合わせて乗客をまとめて運んでいるので、間違いなく同期していると言えるでしょう。一方で、同じ乗り物でも自転車は一人乗りということもあり、自分のペースで移動ができるので非同期に分類されます。このような視点で考えてみると、他にもエレベーターや横断歩道は同期しているもの、エスカレーターや歩道橋は非同期なものであると言えます。

モビリティや交通以外の分野で考えてみると、たとえば毎週決まった曜日・時間に合わせてゴミ収集場にゴミを出す行為は、周辺の家同士で同期している行動と言えます。一方、マンション内にあるゴミ置き場では、多く

の場合、居住者であれば24時間自由なタイミングでゴミ出しが可能なため、非同期の行動であると言えます。

## 豊かさのヒントは「非同期化」にあり

このように、私たちの社会は基本的には「他人とどのように同期するのか」を前提として、さまざまなシステムがつくられていることがわかります。社会は多くの人々から成り立っているため、円滑で安全に、なおかつ低コストで効率よく運用するためのものとしてデザインされる必要があるからです。

しかし、私たちが暮らす社会には、同期しているサービスやシステムと同等かそれ以上の役割や機能を持った非同期のシステムも存在します。それらは個別対応を前提につくられているので比較的高コストになりますが、その分、高い付加価値を持ったものでもあります。

つまり、日々の生活のなかで個々の時間的自由を担保することは、私たちの社会においては「価値のあるもの」と考えられているわけです。

上記の観点から、今後の新しい社会のあり方やサービスなどを構想する際には、いかに同期しているもののなかに非同期のものを組み込むか、またはいかに非同期化していくのかを考えていくと、新たな価値の創出や豊かさにつながるヒントが見つかるかもしれません。 ▲

## PROFILE 菅 俊一 〈SYUNICHI SUGE〉

コグニティブ・デザイナー。表現研究者。映像作家。多摩美術大学美術学部統合デザイン学科准教授。1980年東京都生まれ。人間の知覚能力に基づく新しい表現を研究・開発し、様々なメディアを用いて社会に提案している。主な仕事・著書に、NHK Eテレ『2355/0655』、『観察の練習』『ヘンテコノミクス』など。